

木曽川という“ギフト”

(断章“ノコギリヤネのある風景 ”その7)



▲『日本八景』（2005 復刻版／初版は 1928 年）

尾張の大地を創造し、織物業の繁栄にも深く関わる木曽川。一宮市エリアには、対岸も含めて、多くのノコギリヤネが集積している。

昭和初期に、大正天皇の崩御、金融恐慌等による沈滞ムードを払拭すべく、東京と大阪の二大新聞社が主催し、全国投票の形で、日本八景（及び二十五勝、百景）が選定された。そして、八人の著名な作家等が分担して紀行文を書いている。河川部門で選定された木曽川の担当は北原白秋であった。上流の恵那、犬山の日本ライン等の景勝地に光をあてる一方、白秋はこう記す。

「犬山からこの笠松までの悠容たる大景を下流にして、初めて中流の日本ライン、上流の寝覚、恵那の諸峡が生きているのである。河川として他に比類のない多種多様な変化が、そうしてそれらの総合美が」

文中には、笠松の「四季の里」、対岸の木曽川町里小牧の「雀のお宿」が登場し、さらに起の水泳場も話題に上がる。それは、上流・中流の景勝地ではなく、木曽川に生まれた生活景といえる。やがて、犬山から下流エリア一帯に「ノコギリヤネのある風景」が形成されていくことになる。

ノコギリアン（神奈川県藤沢市在住／一宮市今伊勢町出身／のこぎりニに出没）

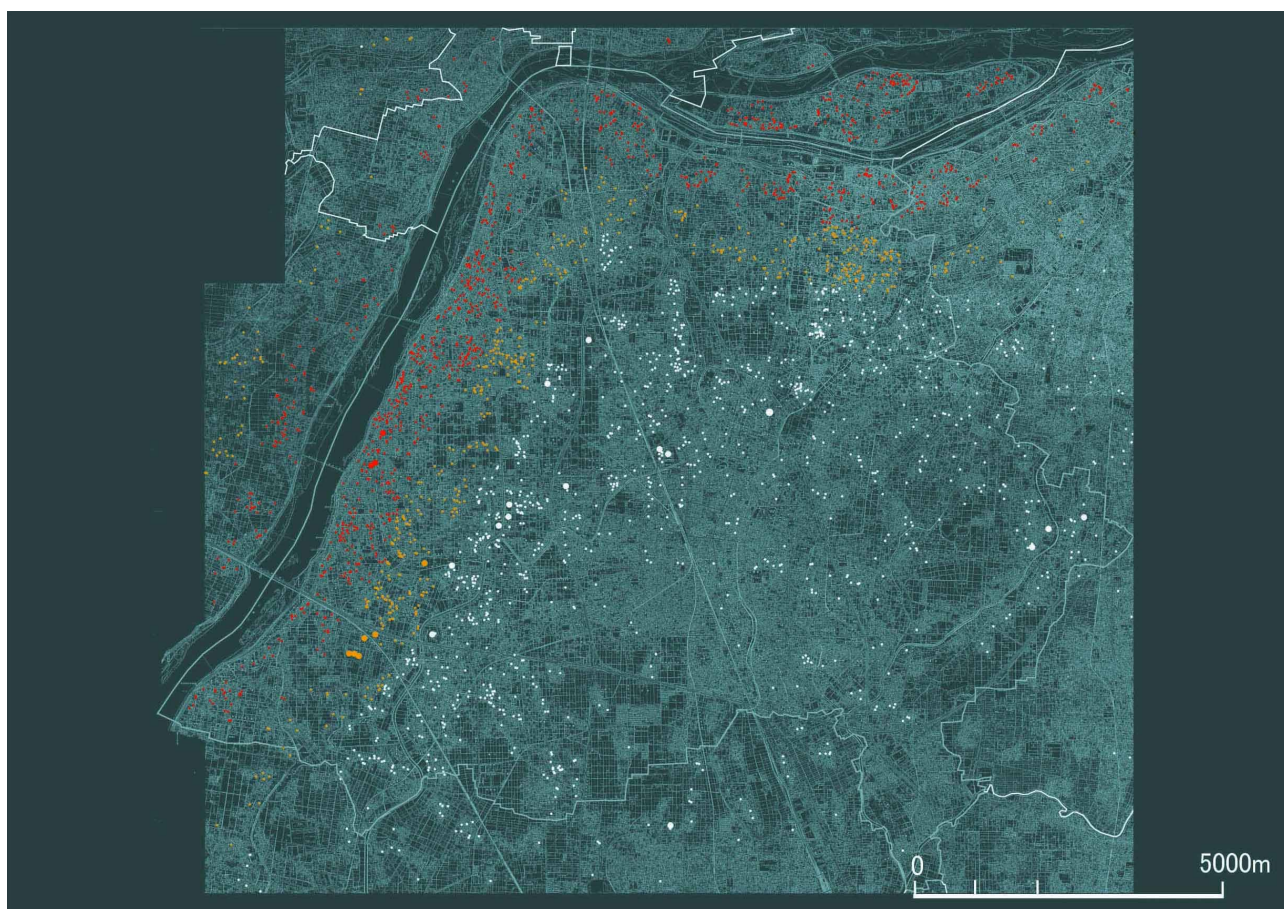
1. ノコギリヤネと木曽川

ノコギリヤネは木曽川と因縁浅からぬ関係にある。この地に織物業が開花したのは、古来より木曽川の水が清らかで、硬度が低く、染色整理に適した“名水”であったからだと言われてきた。昭和初期には、艷金の起工場で大掛かりな木曽川導水工事が遂行されている。紡績、撚糸、染色、製織、整理まで、糸から織物になる一連の工程を、分業、協業の形で、いくつものノコギリヤネが担ってきたのである。

一宮市内には、ほぼ2,000棟のノコギリヤネが残っている（詳細は、「ノコギリヤネのある風景・その6」）。そのうち、木曽川周辺にどれだけ残っているのだろうか、数えてみた。結果、河岸から1km以内のエリアには約680棟、全体のほぼ3分の1を占め、2km以内では約1,130棟、全体の約55%を占めていた。また、隣接、対岸する地域にも多くのノコギリヤネが残っている。中でも旧川島町（各務原市）の約150棟は、木曽川の中島に立地する気になる存在である。

冒頭、ノコギリヤネと木曽川を“因縁浅からぬ関係”と記した。それは、過日、マスミダカラスが語った「木曽川誕生にまつわる秘話」を意識してのことである。

木曽川の水質か。それは、ひとつの要因に過ぎない。これほど織物がひとつの“業”として繁栄が続いたのは、オマエたち人間の力だけによるものではない。オマエたちには見えない力が働いているのさ。教えてやろうか。それは、木曽川が“龍”だったからだ。



▲ 木曽川沿いエリアのノコギリヤネ（赤色は河岸から1km、橙色は1～2kmに立地するノコギリヤネ）

2. “木曽八龍”という“気”の流れ

木曽川が“龍”だったとは、どういうことだ。

マスミダカラスが大パノラマを映し出した。それは、オワリの大地創造の再現であった。木曽の山中に水源を発し、途中、溪谷、峡谷を形成し、平野部に出て、幾筋もの流れとなり彷徨し、大地を形成していく。その姿から、木曽八流あるいは木曽七流と言われた。

いや、違う。ここに映し出された流れは河川ではない。これは、まさに大地をうねる龍だ。龍が大地を創ったというのか。

そうか、木曽八流（七流ともいわれる）とは、“木曽八龍”のことだったのか。

そして、自然堤防の形状をなす土地に人間たちが住み着き、ムラができていく。すると今度はその人間たちが、至るところで龍の動きを拘束し始めた。最初の大捕獲作業は、秀吉による「お囲い堤」であった。その後、明治以降の大掛かりな河川工事、河川改修が続いた。最後は、川島で三つに分けられ（三派川）、いまの木曽川の流路となった。いつしか、龍の姿は消えていた。

以前、「尾張は木曽川の賜物だ」と言ったことを覚えているか？

真意は、尾張の大地を含む全てが、木曽八龍の“気”(エネルギー)によって創造されたものということさ。オマエたちの命も木曽八龍が育んだものだ。

それは、木曽八龍の“ギフト”だ。



▲ 木曽八流と尾張大地（「濃尾平野河川地形図（建設省）」と「木曽川の支流（木曽川町史）」重ね合せ）

3. 木曽川となった“木曽八龍”

われわれの存在も、「木曽八龍のギフト」によるものだと？

それは、どういう意味だ。それで、木曽八龍はどこに消えたのだ？

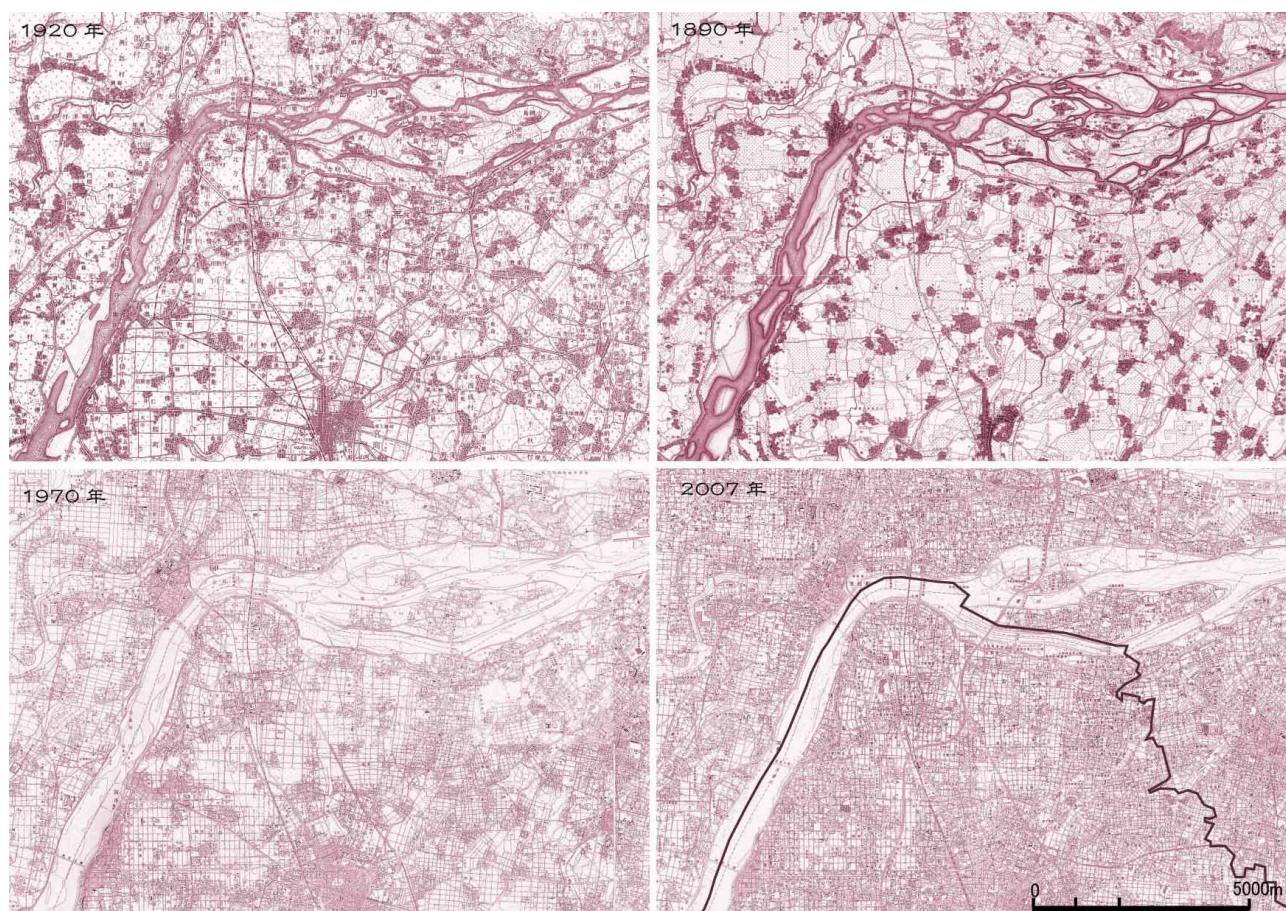
川島の三派川の地下深く、静かに眠っているよ。百年前ぐらいまでは、まだ姿を見せていた。そういえば、昭和初期の導水工事、あれは川底から川堤下を潜水湧水して来る水を集水したと言われている。それは、まさに龍の発する“気”（エネルギー）の満ちた水だな。

そして、マスミダカラスは木曽川に収束していく木曽八龍の姿を映し出した。それは地図でも確認できる。1920年頃には、龍の気（エネルギー）が流れていたが、70年代には消えていた。

真清田神社の祭神がいろいろと変わってきたことは知っているだろう？

明治以降は、天火明命で落ち着いたようだが、大己貴命、国常立尊、天照大神、月読命、大龍神と多様だ。その中で、魂を持った存在は、大龍神だけだった。あとは、権力のシンボルとしてのカタチだけだ。まあ、カラッポだから便利に使えるわけでもある。

モノが産み出される背景には、土地の霊力（ゲニウスロキ）が関わってくる。これは万国共通だ。木曽川の近くに無数の織物コウバが生まれ、現在の使われ方を問わず、まだ数多く残っているのは、まさに木曽八龍の霊力ではないか。



▲ “木曽八龍”が旧川島町の下に眠るまで（1890年・1920年・1970年・2007年）

4. 公園とコウバ（公場）

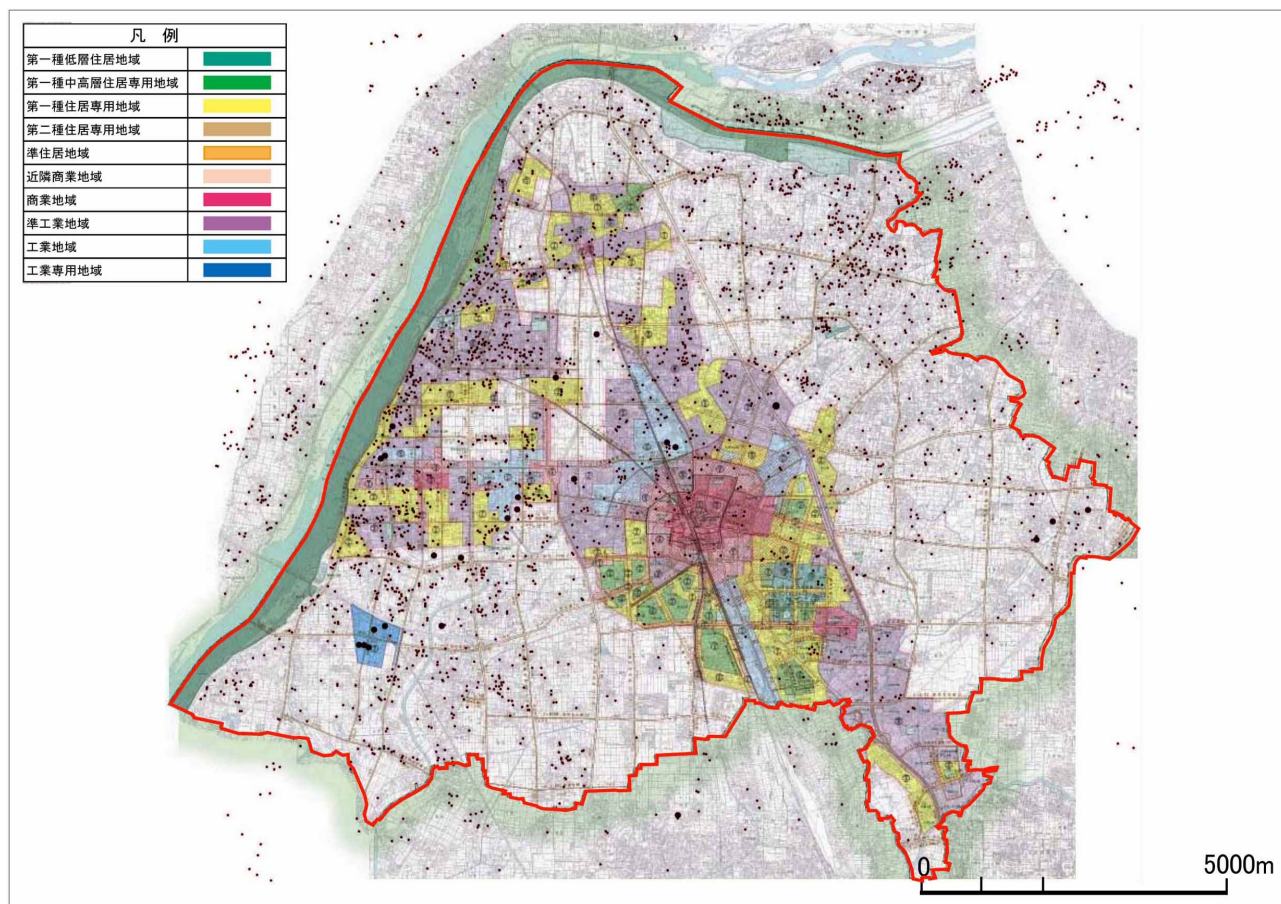
そうか。そうだとすれば、「ガチャ万の呪縛」も木曾八龍の呪力によるものかもしれないな。

いや、違う。人間と違って、木曾八龍は純粋な存在だ。呪いをかけるようなことはしない。そのガチャ万の呪縛とやらは、オマエたち自身がかけているのじゃないか。一時の成功、繁栄に引き摺られるあまり、足元の大地が見えていない。木曾八龍がもたらしたものは、呪いじゃなく、ギフトだ。それに対して、オマエたちは何をした。国営公園としてまつりあげ、体よく利用している。いつも受け取るばかりだな。ギフトは、“毒”でもあることを覚えておけ。

江南市から河口部にかけて、三つの拠点地区で国営木曾三川公園として開設されている（1987年）。自然環境への理解、歴史文化への理解等が基本理念で謳われ、年間利用者は900万人にも及ぶ。同様の国営公園整備が全国で進行中である。これに反意を唱えるつもりはないが、「制度化された公園」が気になりである。「公」とは一体誰のことなのか。マスミダカラスが“オオヤケ”と喝破したように、日本の公園は、明治以来、ずっと“官園”と呼ぶにふさわしい存在だ。

かつて笠松にあった「四季の里」と里小牧の「雀のお宿」には、紙幅の関係で触れられなかったが、民間の手になるこれらの施設に「公園」の可能性が予感される。それは、「公場(コウバ)」としてのノコギリヤネを考える大きな手がかりとなるはずである。

しかし、マスミダカラスの吐いた言葉が気なる。「ギフトは毒でもある」とは・・・



▲ 都市計画図とノコギリヤネ分布

○エピローグ

起はどうもあかんで。北原白秋の紀行文中、笠松の「四季の里」に向かう船上で、櫓(ろ)の漕ぎ手が発したセリフである。起の水泳場の客入りのことなのか、木曽川の風景に馴染まないということなのか。あるいは、工業化で起のまちが繁栄する一方、木曽川の風景への侵食を予感した文筆家の代言だったのか。そういえば、白秋には都市計画に関する論考がある(「都市計画論」『柳河新報』1923年 等)。工業化に伴う風景の変貌を気にかけていたかもしれない。

芥川賞作家で自身の名前の冠する文学賞のある中山義英に『木曽川物語』(『中部日本新聞』1954年)という作品がある。小型機で空から尾張一帯を眺望するところから話が始まる。濃尾平野について、「日本の中原だ。この一大沃野に鹿をおうて、天下に覇を遂げた信長、秀吉等が揺籃のふるさと…、いかにも、豊かな眺めである。田野は隅々まで手入れされ、麦の緑と菜の花の黄と精巧な織目をつくり、美しい縞物の絨毯を、いちめんに敷きつめたよう。…田野の至る所に部落があり、廣大な市街がひろがってゐる。これも濃尾の廣野以外には見られぬ、さかんな光景であらう」と描く。時代は、まさに鋸屋根工場が「さかんな光景」を作り始めていた。

場面は変わり、金華山の岐阜城から展望した濃尾平野。いつとき、信長に成り代わって眼下の風景を俯瞰してみる。麒麟が来るというのか、この龍の大地に。

龍が“気”の流れを起こす。“気”の流れる川だから木曽川というのは無理があるかもしれない。これからの「断章・ノコギリヤネのある風景」の後半戦は、地理的な観点も入れて、東西南北エリアに視野を広げて見ていこうと思う。「公場」としてのノコギリヤネを意識しつつ。

奇しくも今日は、令和三年三月三日の三並び。もし平成ならば、三十三年三月三日。一説には、マスミダカラスのホームである真清田神社の創建は神武三十三年三月三日だという。マスミダカラスの導きか。そのマスミダカラスは真清田神社という“ウツホ”(創造の根源)を有する。

このノコギリアンにとっての“ウツホ”は、やはり「のこぎり二」ということだろうか。

2021.03.03



▲ 岐阜城からの展望－龍の大地に麒麟が来る？